

AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

第28回 報告書

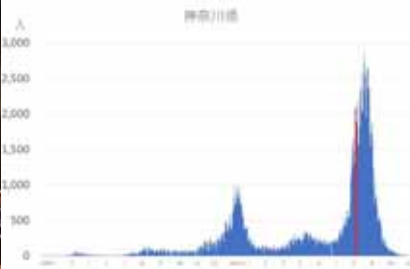


テーマとともに生きる

つながりの参加者になる

揺れた開催

例年使用していたかながわ県民センターが耐震工事のため、2021年は神奈川県立地球市民かながわプラザ(通称:あーすぷらざ)で開催する予定でした。最寄り駅がJR根岸線の本郷台駅徒歩3分。音響施設も充実していたため、映画「プリズンサークル」の上映だけではなく、千葉ダルクによる琉球太鼓の生演奏も予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の第5波が到来したため、やむを得ず、オンラインのみの配信という方法を取ることになりました。結果的に開催日(グラフ赤線)以降も感染が拡大したため、オンラインのみの開催は適切な判断だったと思われました。



確実な感染予防対策

配信会場入り口付近に手指消毒のためのアルコールを設置。配信会場のスタッフは全員不織布マスクを着用することで飛沫の飛散を最小限にとどめました。エアロゾルについてはサーキュレーターを登壇スペースの背側に設置し、登壇スペースの上にある換気口から積極的に排気しました。登壇者間にアクリル板を設置し、飛沫が他の登壇者にかからないようにしました。



進化した配信方法

昨年は運営委員の熊谷さんがミキサーを持参してくれたのをはじめ、皆で知恵を出し合って何とかZOOM配信にこきつけました。その経験を活かし、今年はビデオカメラ3台を切り替えながら、会場登壇者は正面の大画面テレビでオンライン登壇者や説明映像を確認しながらトークに参加できるようになりました。



撮影・ミキシングチーム
前田・熊谷・佐部



また、このようにオリジナル背景を作成し、AIDS文化フォーラム in 横浜らしい配信ができました。



配信会場内に配信映像を投影するスペースを設け、全員で視聴とチェックを行いました。

1. 揺れた開催・確実な感染予防対策・進化した配信方法	…P 2
2. プログラム一覧	…P 4
3. 開会式・組織委員長あいさつ	…P 6
4. オープニング「情報による社会の分断 ～当事者・支援者・伝える人・受け取る人～」	…P 6
5. オンライン講座	…P 8
6. オンライン活動紹介	…P17
7. 迎珍の閉店	…P19
8. 広がるAIDS文化フォーラム	…P20
9. 新聞記事	…P21
10. フォーラム全体集計表	…P22
11. AIDS文化フォーラムin横浜 28年の歩みー開催概要と経緯ー	…P24
12. 第28回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち	…P27
13. AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約	…P28
14. 協賛・寄付	…P29
15. 参加団体等名称・索引	…P29



AIDS文化フォーラム in 横浜とは？

1994年に横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO/NPO、学生、HIV/AIDSと共に生きる人々、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい想い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で28回目を迎えました。第27回に引き続き、第28回も新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催となりました。

「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、依存症、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育…私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

報告書作成にあたって

フォーラム3日間だけではなく、事前準備を含め、参加者の、支えてくださっている方々の、そして運営委員の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会い、つながりをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載していますので、活用していただければ幸いです。



YouTube配信をiPadでもチェック

配信チーム

プログラム

8月6日 (金)

8月6日 (金) 10:00~12:00
開会式・オープニング

情報による社会の分断


～当事者・支援者・伝える人・受け取る人～



川田雅平 (参議院議員、柔吉エイズ原告)、下村健一 (情報スタバイザー)、
矢水由里子 (西南学院大学大学院人間科学研究科:臨床心理士)、岩室神也 (HIV/AIDS 啓発医師)
HIV/AIDS も当初は「共に生きる」ための情報が伝わっていませんでした。新型コロナウイルス
がまん延する今、HIV の当事者、HIV/AIDS の初期から取り組む支援者、伝える人だから語れる
ことを検証します。


8月6日 (金) 12:15~12:45

山田雅子のオンライン・ミニ講座 (with 星野貴泰) ①



8月6日 (金) 13:00~14:30

情報に踊らされないために



下村健一 (インターネットメディア協会 (JIMA) リテラシー部会担当)
「へえ、知らなかった!」「なるほど、誤解が消けた!」「面白い、興味が湧いた!」そんな時の「ス
イッチON」に接するのが好きという立場から、つい情報に踊らされてしまう現代社会で、コミュ
ニケーションという意図を汲み取るにはどうすればいいかを考えませんか。 [後援: JIMA]

8月6日 (金) 14:45~15:30

防げる、防ごう、母子感染! ~ウイルス感染症~

(厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染者の妊娠・出産・子後に関するコホート調査
を含む疫学研究と 情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」喜多郎
コロナも HIV もこわい!赤ちゃん産めるの?そんな気持ちを持っている人、一緒に語りあきましょう。

8月6日 (金) 15:45~17:00

つながりの参加者になるためには

～違法とされる薬物を使った人たちの社会参加を阻むものは～



松本俊彦 (精神科医)、風間暁 (保護司、NPO 法人アスク社会対策部薬物担当、薬物依存症当事者)、
原本繁一 (元NHKアナウンサー)、ビースさん (医師)、岩室神也 (HIV 診療医)
コロナでさえも気が付けば差別が繰り返されている日本、薬物使用者の社会復帰について、実際に薬
物使用で刑に服した当事者の人たち、薬物依存症診療の第一人者と共に考えます。

8月6日 (金) 16:00~16:45

タイ・エイズ孤児ケアセンター ハッピーホームのその後

横浜 YMCA

タイの HIV/エイズに関する社会状況の変化とハッピーホームのその後についてお話しします。

8月6日 (金) 17:15~18:00

岩室神也先生とかんざきあやののセクシャリティトーク

第2のコンドームの達人 かんざきあやの
第2のコンドームの達人を招くかんざきあやのが、岩室先生と本音のセクシャリティトーク!




8月6日 (金) 17:15~18:00

ブームではおわらせない、性教育の本を書きました!

横浜 AIDS 市民活動センター

「あっ!そうなんだ!わたしのからだ」の著者たちが語る、からだを知り、大切にすることから始
まる性の学び



PWA/H+セクシュアリティ/LGBTQ+性	文化	国際	保健・医療・福祉	教育	若者・ネット	薬物	薬害・人権・ノーマライゼーション
------------------------	----	----	----------	----	--------	----	------------------


8月7日 (土)

8月7日 (土) 10:00~10:45

性教育講演で実施している、セルフマッサージの紹介

助産師 有馬祐子

あらゆる場でセルフマッサージを紹介しています。心と体のセルフケアについて一緒に考えてみ
ませんか?



8月7日 (土) 11:00~11:45


人もいろいろ、言葉もいろいろ、人生いろいろ

～多言語でつながろう!～

かながわ外国人すまいサポートセンター
お多言語相談の事例や震災時における多言語支援の現状を寸劇等で紹介しながら、多様性について
考える。

8月7日 (土) 12:00~12:45

山田雅子のオンライン・ミニ講座 (with 星野貴泰) ②



8月7日 (土) 13:00~14:00 (宗教と AIDS Part16)

宗教と AIDS つながる手段としての宗教



イグナシオ・マルチネス (カトリック教会司祭)、高村敏浩 (日本福音ルーテル三鷹教会牧師)、
織部住職 (日本HIV情報センター)、古川調成 (浄土真宗本願寺派浄賢寺僧侶)、
岩室神也 (運営委員会)
太古の昔から宗教は人と人がつながる手段となってきました。一方で宗教間の争いが絶えないの
も事実です。多様なつながりの参加者となるために、いま、宗教に何を学べばいいかを考えます。

8月7日 (土) 14:30~16:40

映画: プリズンサークル

残念ながら上映中止になりました



8月7日 (土) 14:15~15:00

薬害エイズ裁判和解 25 周年

薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ裁判和解 25 周年の今年、薬害被害者と弁護士・支援者で薬害問題について語ります。

8月7日 (土) 15:15~16:00

女の子が安心して学校に通えるように!

～インドネシアの月経衛生管理


神奈川県ユニセフ協会
世界の月経衛生管理と、ユニセフがインドネシアで行っている月経管理の支援プログラム紹介。

8月7日 (土) 16:15~17:00

HIV と妊産婦への切れ目のない支援

AIDS ネットワーク横浜

分娩からむ社会的な問題の啓発者である水主川先生から、若い女性、妊婦への必要な支援のお話
をします。




8月7日 (土) 17:15~18:00

若者と関わる教育

保健医療関係者・保護者に知ってほしい若者の本音と関わり方のコツ

精華学園高等学校町田校 校長・心理カウンセラー 椎名雄一
時間を守れない・恋愛の仕方が違う・感覚が鋭い・超夜型など、理解しにくい若者の本音と関わり
方を紹介。



PWA/H+セクシュアリティ/LGBTQ+性	文化	国際	保健・医療・福祉	教育	若者・ネット	薬物	薬害・人権・ノーマライゼーション
------------------------	----	----	----------	----	--------	----	------------------

8月8日 (日)

8月8日 (日) 10:00～10:45
多様性とはなにかを考える
 かずえちゃん (YouTuber)、ナナさん、とよさん
 多様性って何でしょうか？ LGBTQ、社会の落ちこぼれなど、いろんな角度から考えます。

8月8日 (日) 13:30～14:30
水谷修さんと考える、コロナ禍の依存症
 ～新型コロナウイルス対策の裏で何が・・・～
 水谷修 (水谷青少年問題研究所所長)、五十熊勇 (本牧ダルク)
 岩室紳也 (運営委員会)
 ステイホームが叫ばれ続けて2年、人と人のつながりが希薄化し、自殺が増え続けています。夜の街は、依存症の世界が画面している困窮な状況について「夜回り先生」、五十熊勇さんとともに考えます。

8月8日 (日) 11:00～11:45
なぜ、私たちはここにいるのか？
 ナルコティクスアノニマス
 ナルコティクスアノニマス(NA)は薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです

8月8日 (日) 14:45～15:45
 クロージングセッション
HIV/AIDS と新型コロナウイルスの共通点
 宮崎豊久 (インターネットポリシースペシャリスト)、岩室紳也 (オフィスいむろ)
 相変わらず猛威を振るっている新型コロナウイルスですが、正確な情報が届いていないのではありませんでしょうか。インターネットの専門家と、HIV/AIDS の普及啓発専門家から見た情報を伝える上での問題点を考えます。

8月8日 (日) 12:00～12:45
山田雅子のオンライン・ミニ講座 (with 星野貴泰) ③

8月8日 (日) 13:00～13:30
ダルクの琉球太鼓
 AIDS文化フォーラム in 横浜では前例行事だった琉球太鼓、千重ダルクの皆様の演奏を紹介します。

8月8日 (日) 15:45～16:00
広がる AIDS 文化フォーラム～陸前高田、横浜、名古屋、京都、佐賀～
 1994年、エイズ国際会議を契機にはじまった、市民による市民のための AIDS 文化フォーラムの活動は、2011年に京都府綾部へつながったことを皮切りに奈良～(陸前高田、横浜、名古屋、京都、佐賀)と広がりました。
 全国のフォーラムがオンラインで集い、つながります。

PWA・H・セクシュアリティ・LGBTQ・性 文化 国際 保健・医療・福祉 教育 若者・ネット 薬物 薬害・人権・ノーマライゼーション

オンライン活動紹介

横浜 YMCA ACT
 語学と国際交流に特化した横浜駅が最寄りの YMCA です。教育機関・企業へ向けての英語レッスンや HIV/AIDS 啓発授業を行います。



カトリック HIV/AIDS デスク
 1995年からカトリック教会は HIV/エイズの啓発を続けています。予想もなかった COVID-19 蔓延により現地に行き、顔合わせ、交流するという従来の活動ができない中、オンラインによる活動を模索しています。



HAATAS (HIV/AIDS Action Team At SHARE)
 HAATAS は、HIV 予防啓発活動を行うボランティアチームです。主な活動は、学校での授業、街頭イベント等です。参加型ワークショップの手法で、参加者が HIV を自分事として感じられるように工夫しています。



日本 HIV 情報センター
 日本 HIV 情報センター (JHIC) は、国籍、性別、セクシュアリティを問わず、皆が共に生きる社会を目指すボランティア団体です。2021年9月より HIV 感染不安や検査についてなど、Zoom による相談を開始します。



ジェクス株式会社
 ジェクス株式会社は「グラマラスバタフライ」「ZONE」のコンドームメーカーです。全国で性教育や啓発をされる皆様に、無償でコンドームのサンプルを提供しております。現物に触れての装着練習などにご活用ください。



開会式・組織委員長あいさつ

AIDS文化フォーラムin横浜の第28回目は、昨年に続きオンラインでの開催となりました。昨年の実績をもとに、また運営委員の皆様が昨年の評価をもとに新たなチャレンジも加え開催いたします。当初は、これまで不動のメイン会場神奈川県民センターが改修工事のため、本郷台のあーすぷらざにメイン会場を移し、会場開催とオンライン開催のいわゆるハイブリッド開催というさらなる進化した形態で開催の予定でした。しかし現状の感染拡大の状況から判断し、組織委員会としてはオンラインのみの開催とさせていただきます。会場プログラムを特に映画上映を楽しみにしていた方々には、映画の配信ができず申し訳ございません、ほかにも多くの魅力あるプログラムがたくさんありますので、そちらでぜひ有意義な時をお過ごしいただきたく、お勧め、お願い申し上げます。また、ご準備いただいていた出演、出講の皆様、運営に携わるスタッフ、ボランティアの皆様も急遽の変更や対応などにご理解ご協力いただきありがとうございます。今年も多くの皆様の力の結集したフォーラムをぜひお楽しみください。

さて、人間は本来、多様性を尊重する社会にいて、自分にはないものを持つ他者に出会うことによって、経験と知識が増え、自分なりに吸収して解釈することで全人的な成長をしていくものです。子どもたちへの教育も「違いを認め共に生きる」ことができるような多様な価値観に触れることが大切といえます。そういった意味でも、今回のフォーラムのメインテーマである「ともに生きる つながりの参加者になる」はつながり、他者との関係性を考えるうえでとても重要なものであると思います。こんな時だからこそ、だれもが委縮し、疑心暗鬼になる中で、多様な価値観を認め、共に生き、つながりの中にいることを感じることを発信するフォーラムの存在が重要と考えます。

今回もオンラインでの開催になりプレゼンターも参加者もどこからでも移動なく参加できます。昨年度は47都道府県から、海外からも参加者がありました。テクノロジーによる広がりによって、つながりの参加者は物理的な距離を超えていきます。この3日間も多様な発表、メッセージに触れ、つながりの一員であることをお一人お一人が実感されることを願っています。

なお、この開催に向けて多くの方々のご協力と参画があったことを申し加えます。ことに、協賛、助成、ご寄付をお寄せいただきました、企業、団体、個人の皆様にも心より感謝申し上げます。

あわせて、フォーラムの代名詞ともいえるべき単語に「手弁当」という言葉があります。もう一般的ではない単語かもしれませんが、本当に、フォーラムに集う多くの団体、個人、企業の方々の手弁当で作上げてきました。フォーラムの趣旨に賛同し、関わってくださる皆様の高い志に敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。参加される皆様もぜひ、「参加者」から、ともにこのAIDS文化フォーラム in 横浜をつくっていく「伴走者」になっていただければ嬉しく思います。

組織委員長 佐竹博



オープニング

情報による社会の分断

～ 当事者・支援者・伝える人・受け取る人 ～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：川田龍平（参議院議員、薬害エイズ当事者）下村健一（情報スタビライザー、白鷗大学教授）
矢永由里子（西南学院大学大学院人間科学研究科：臨床心理士）

司会：岩室紳也（AIDS文化フォーラム in 横浜）

薬害エイズの被害でHIVに感染した川田龍平さん。1994年の国際エイズ会議での経験を受け、様々な偏見や差別を乗り越えて1995年3月にカミングアウト。多職種によるチーム医療や南新宿検査・相談室でカウンセラーとしてHIV/AIDSに関わり、現在は九州で新型コロナウイルスの相談業務に取り組む矢永由里子さん。メディアリテラシー教育に取り組む下村健一さん。HIV/AIDS診療と予防啓発教育に取り組む岩室医師がHIVとコロナと情報について語った。

内容:HIVで学んだことをコロナで活かすために

- ◇HIVではその時の情報は数か月後には覆られるとして次々と更新されたがコロナでは更新されない。ニュースは永遠の中間報告ととらえることが必要。
- ◇インターネットが発達したからこそ、社会が不安の時、結論が決まらない不安、安心したいから正解、答えを求める風潮が加速し、「ゼロか百か」、「ゼロリスクか感染か」という思考パターンになる。
- ◇HIVでは感染している人が治療で体内のウイルス量を減らすことや、感染リスクがある行為の時に抗HIV薬を服用するというリスクリダクションという方向性。
- ◇0か100ではなく、1～99の間で。
- ◇3密・感染者数に当たっているスポットライトを感染経路・感染判明者数に。
- ◇HIVで男性同性愛や新宿2丁目、コロナではホストやお酒を提供する飲食店といった人・場所・機会にスポットライトが当てられた。その結果、その人・場所・機会が感染を広げているという印象が浸透し、結果として偏見や差別につながった。しかし、これらの言葉が飛び交う心理はあくまでも感染予防を考えてのことである。
- ◇HIVで感染機会についての不安を訴える人たちも、感染経路についての情報を持ち合わせていない。
- ◇海外ではコロナがキスで感染することを含め、安全なセックスについての啓発がされたが、日本では「濃厚接触」というくりになっているのは日本の文化の問題。
- ◇学校が生徒はセックスをしないものとしてとらえ、性教育を行わないのは、スマホ禁止にしている学校でメディアリテラシー教育が進まないのと同じ。
- ◇HIV感染拡大で失敗した当時の厚生省が、コロナ対策でも再び失敗。情報を隠蔽するのではなく、いろんな立場からリスクコミュニケーションをはかることが重要。
- ◇最終目標である感染予防への登山道を増やす方向を。
- ◇家庭内感染が起きた時に親は「隠せ」というものの子どもは隠しきれない、ということが今後問題になるだろう。
- ◇当事者の経験に学び、社会的、関係性の喪失、遮断が起きない方向性を目指したい。

視聴者の感想:

- 毎回時事の話題に触れていただき、今一番欲しい情報をたくさんいただきました。情報をどのように受け止め、整理をしていくかというような、頭の整理がつく内容でした。(50代 教育関係 山梨県)
- 様々な視点から物事を見ることの重要性を改めて知ることが出来ました。それぞれの先生の役割から見えることは幅広く聞いてきて興味深かったです。(20代 学生 神奈川県)
- どんなワイドショーより、安心感をいただきました。(40代 教育関係 神奈川県)
- HIV感染とコロナ感染について、共通する部分や感染症予防を踏まえながら、今するべき事は何なのか、どのようなスタンスでいるべきなのか学ばせていただきました。「0か100ではなく、1～99の間で」という言葉がとても印象に残りました。今後の参考にしたいです。ありがとうございました。(10代 学生 神奈川県)
- 当事者の議員の方がいらっしゃることを存じあげませんでした。とてもリアルにこのコロナ禍と当時の偏見差別が酷似していること、それはすべてが悪意から起こってはいないこと(差別ではなく感染対策というイノセント)が私たちにどう影響していくか、過去からの学びが必要なことがわかりました。(40代 保健・医療・福祉関係 大阪府)

連絡先:AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

URL:<https://abf-yokohama.org/>

E-mail:abf@yokohamaymca.org



オンライン講座

情報に踊らされないために

主催：下村 健一（インターネットメディア協会(JIMA)リテラシー部会担当）

内容：AIDSの登場を通じて生じた「情報の歪み」。それは生命にかかわる感染症への恐怖・未知なるものへの不安から、真剣に取り組んだ感染予防対策にまつわる情報が、伝わり方のエラーを通じてやがて「差別・偏見」を生んだ——今般の新型コロナウイルス感染症を巡って再び同じことが起きていないでしょうか？都合の良い情報の切り取り、SNSで拡散された情報…。情報の真偽を見きわめ、知らぬ間に自分がデマの拡散に加担しないために必要な“ワクチン＝情報の見分け方・気を付け方”とは？模擬授業を通じてメディアリテラシーについて学びました。

視聴者の感想：

- さすが、説明のプロフェッショナルという感じで、とても分かりやすかったです。今子どもだけでなく、大人にも大切な内容だったと思います。自分のふるまいを振り返る良い機会となりました。(50代 教育関係 山梨県)
- 自分の専門の情報に関してはそんなことはしないのに、それ以外の情報では自分の意見や希望からつい思い込みスイッチが入っていた事に気づきました。今日から意識的に、スモールステップ、だけど確実に、まずは「まだわからないよね」を唱えます。(40代 保健・医療・福祉関係 大阪府)
- 情報社会だからこそとても大切な内容だと思いました。なるほど～と思える事が多く、沢山の情報が身近にある今の社会を生きていく中で、ソウカナを忘れずにしたいです。(20代 学生 神奈川県)



連絡先：下村健一 URL：<http://shimomuraken1.com/>

防げる、防ごう、母子感染！～ウイルス感染症～

主催：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」喜多班

内容：当日は研究班の班長（奈良総合医療センター産婦人科医師 喜多恒和さん）の挨拶から始まり、3名が3種のウイルスに関して母子感染、感染予防法を中心にプレゼンテーションを行い、最後に質疑応答を行った。

1. 新型コロナウイルス感染症の概要、母子感染、予防法について（神戸大学産科婦人科医師 出口雅士さん）
2. HPVウイルスによる疾患（尖圭コンジローマ、子宮頸がん）、母子感染の有無について（防衛医大産科婦人科医師 高野政志さん）
3. HIV感染症の検査法、母子感染の状況、予防法について（名古屋医療センター HIVコーディネーター 羽柴千恵子さん）

プレゼンテーション後の質疑応答に関しては、HPV既感染者に対するワクチンの効果、積極的接種対象年齢をこえた女性に対する接種の効果などを中心に活発にご質問いただき、討論いただいた。実施中のZOOM表示による参加人数は103名であり、当グループ独自に行ったアンケート調査には28名が、主催者側で提示したアンケートには45名が回答した。アンケートによれば、参加者は若年女性が多く、内容については概ね好意的な意見が大多数を占めた。もっと長く聞きたかったとする意見も多くいただき、今後の活動へ反映していきたい。

連絡先：喜多班長の所属先：〒630-8581 奈良市七条西町2丁目897-5 奈良県総合医療センター
TEL.0742-46-6001 FAX.0742-46-6011 URL(喜多班)：<http://www.hivboshi.org/organization/index.html>

つながりの参加者になるためには

～違法とされる薬物を使った人たちの社会参加を阻むものは～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：松本俊彦（精神科医）ピースさん（医師：ニックネーム）岩室紳也（HIV診療医）
風間暁（保護司、NPO法人アスク社会対策部薬物担当、薬物依存症当事者）

司会：塚本堅一（元NHKアナウンサー）

内容がわかる視聴者の感想：

- ピースさんのお話は、何度聴いても、胸を打たれます。風間さんのお話は初めて伺いましたが、明るくてすごいパワーをいただきました。松本先生の本音が出るお話も、岩室先生の学ぶ姿勢にも、また、塚本さんのまとめ力も、圧巻でした。学びたくさんの楽しい時間を、ありがとうございました。（50代 教育関係 山梨県）
- 当事者の方のお話を聞いて、辛い過去があったのにその事を伝える側になって話して下さった姿に心を強くうたれました。今後医療従事者になった際は、患者さんの意見を尊重すること、話に耳を傾けて受け止めること、否定しないことを意識して関わっていけるようにしたいと思いました。（10代 学生 神奈川県）
- 自傷行為をして、OD（薬の過剰摂取）をしそうになりそうな心境を知っている私は過去にいじめにもあったりして苦しんだ経験があるので、薬物に入っていき動機や苦しみの根は一緒ではないかと感じました。私は、今、そんな人たちに何かできないかと考えていましたが、やはり居場所を作ることが大事だなと風間さんの話を聞いて思いました。いつか実現をさせたいと思います。（30代 アルバイト 長野県）
- 岩室先生がおっしゃった「理解しよう」とはいわない。という言葉にハッとさせられました。半世紀近く生きてきても自分のことだって理解できていません。自分も相手も否定しない。頭でわかっていても、本当に心からできていたのか疑問です。これからの人生の指標としていきたいです。（40代 教育関係 神奈川県）



連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:<https://iwamuro.jp/>

タイ・エイズ孤児ケアセンター ハッピーホームのその後

主催：横浜YMCA

世界120の国と地域に広がるYMCAは、平和で差別や貧困のない世界を目指して活動している。横浜YMCAは1994年よりタイ・バンコクYMCAと協働し児童保護プロジェクトを進めている。

内容：HIV/AIDSの影響を受けた子どもたちを支援するため、また、地域社会における予防啓発活動を行うため、2001年にバンコク郊外に開設したYMCAハッピーホーム。バンコク・横浜YMCA協働のもと、これまで多くの子どもたちがハッピーホームで生活しながら学校に通い、適切な医療を受け、健康で安全な暮らしを送ってきました。2017年、医療・保健衛生制度の向上により、ハッピーホームは活動を終えることとなりました。

開設から20年、タイ社会におけるHIV/AIDSを取り巻く環境の変化と、子どもたちのその後、ハッピーホームの果たした役割を、バンコクYMCAスタッフとともに振り返りました。

視聴者の感想：

- ハッピーホームを巣立った人たちが、苦勞しつつそれぞれの場で元氣そうに頑張っている姿を見せてもらって勇気づけられた。（60代 神奈川県）
- ハッピーホームの閉鎖後について勉強になりました。退所後に故郷または新天地で新しい生活が出来ているのはハッピーホームでの支援のたまものだと思います。（50代 教育関係 神奈川県）



連絡先：横浜YMCA 国際・地域事業 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

E-mail:kokusai@yokohamaymca.org URL:<http://www.yokohamaymca.org/>

岩室紳也先生とかんざきあやののセクシャリティトーク

主催：かんざきあやの

看護師 受胎調節実地指導員 思春期保健相談士 看護学生時に看護学校でサガミオリジナルのサンプル配布した経験から、性教育や女性の避妊への参加の活動をしている。



内容：第2のコンドームの達人を狙う、看護師かんざきあやのが岩室先生と本音のセクシャリティトーク！台本なし！NGなし！のスペシャルな45分。事前撮影した動画を配信しましたが、AIDS文化フォーラムにぴったりの内容だったと思います。岩室先生の懐をお借りして完成できた内容ですので、岩室先生に感謝しています。

視聴者の感想：

- 女性側が感じていることを代弁してくださったので、とても共感できました！これを見ていない老若男女にも見てほしい内容でした！（20代 教育関係 福島県）
- テーマごとにチャプター分けされていたのがとても見やすかった。コンドームのことや包茎のことは性教育で学ぶ機会がないので、岩室先生の丁寧な説明で、知ることが出来てよかった。（10代 学生 山梨県）
- お二人の掛け合い、テンポがよく、参考になりました。岩室先生やかんざきさんが自身の経験を赤裸々に語る部分も素晴らしかったです。（50代 教育関係 東京都）
- 若い世代に聞いてほしい内容でした。20歳の息子にTENGAを知っているか聞いたら「みんな知ってる」と言い、50代の夫は知りませんでした。今を生きる若い子たちに生きたい人生を生きるために、知りたい性のことを信頼できる所から発信し、必要な時にアクセスできるシステムがあるといいなあと思いました。（50代 教育関係 神奈川県）

元データアップサイト URL：<https://iwamuro.jp/youtube/tatsujin/>

連絡先：かんざきあやの URL：<https://www.facebook.com/ochinchinsensei/>

ブームではおわらせない、性教育の本を書きました！

主催：横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より(公財)横浜YMCAが受託運営しています。

内容：この1、2年、性教育に関係する本が数多く出版されました。「あっ！ そうなんだ！ わたしのからだ」もその中の1冊です。先に発売されている「あっ！ そうなんだ！ 性と生」は市民活動センターでは人気があります。大人が性教育を学んでいないことや、性教育と聞くと構えてしまい、子どもに話にくいという声を聞き、著者に直接語っていただく機会を設けました。子育て世代だけでなく、学生の参加も多く、教育、医療関係、NPOと多岐にわたる参加者に恵まれました。大人が知らなくとも子どもとともに学び、幼児のときから自分のからだを大切にすることが子どもたちの将来の自信と自立につながっていくと強く感じました。

視聴者の感想：

- 実際に絵本を示しながらどのように語ればよいかを知ることができた。（40代 教育関係 神奈川県）
- 性教育と聞くと、どうしても構えてしまうが、まずは、自分の身体を知り、大切にすることが性教育の第一歩だと知った。絵本を読みたいと思った。（10代 学生 神奈川県）
- 性教育は恥ずかしいから避けてきた。今回の講座を通して、性の知識を適切に理解することに加えて、親と子が性の話をするのできる関係づくりが大切であることを知った。（10代 学生 神奈川県）



連絡先：横浜AIDS市民活動センター 〒231-0015横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422 E-mail:info@yaaic.gr.jp URL:<http://www.yaaic.gr.jp/>

性教育講演で実施している、セルフマッサージの紹介

主催：助産師 有馬祐子

日本思春期学会理事・性教育認定講師。様々な年齢の方々に心とからだのセルフケアについて講演しています。

内容：私はあらゆる講演の場でセルフマッサージを紹介しています。自分の心とからだについて、無理をせずに向き合う方法を知ることが、他者との関わりとの衝突を少なくするのに役立つと思います。また、「やってみましょう。」「やってください。」「と伝えるのではなく、「セルフマッサージをやってみませんか。」「今は、やりたくない、見ていたいと思うと思う方は、少し待っていてくださいね。」と声かけしている実践をお伝えしました。

視聴者の感想：

- 講演を聞きながら、セルフマッサージをしていました。心とからだ繋がっていることを実感しました。(40代、教育関係)
- 性的同意にも繋がる良い話でした。(40代、風俗嬢)
- まずは自分に意識を向ける、そのためのタッチ、それが相手を大切にすることにもつながると理解しました。性教育で知識だけではなく、こういった自分に意識を向けることを実践として行なっていることは、とても良いことだと思います。(40代、保健・医療・福祉関係)

連絡先：助産師 有馬祐子

E-mail: shishunki.arima@gmail.com

URL: <http://midwifemap.com/92yamw/mysite/staff/>



人もいろいろ、言葉もいろいろ、人生いろいろ ～多言語でつながろう！～

主催：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

神奈川県内の外国籍住民の住まいや生活などに関する相談を受けているNPO団体。さまざまな視点から多文化共生を考えたいとの思いで2015年度からAIDS文化フォーラムに参加している。

内容：「人もいろいろ、言葉もいろいろ、人生いろいろ ～多言語でつながろう～」

神奈川県には、現在22万人以上の外国人が在住する。地域住民として、互いの違いや共通点を探るためこのテーマで発信することにした。

この分科会では、日ごろの多言語相談窓口の様子を再現し、外国人の困りごとをそれぞれの言語で相談する場面を見ながら、その内容は皆同じだが、文化的背景や言語が異なれば表現も異なるということを共有する機会を設けた。それぞれの言葉で相談できる場の必要性について考えることを目指した。

視聴者の感想：

- 皆の幸せを考え活動する様子に、感銘を受けた。外国人に寄り添うことが大事だと思った。
- パンデミックのもとで一番困るのはマイノリティだと頭ではわかっていたが肌で感じた。
- 外国人だという理由で入居を断られてことが未だ多いことに驚いた。異文化を持つ人に寄り添うことが常に重要な心掛けだと思う。
- 外国人サポートに尽力する様子が伝わってきた。大変なことも多いが、このような活動が日本社会を豊かにする。
- すまセンのおかげで、外国人も私たちが、同じ国内で暮らしやすくなっている。「やさしい日本語」は大事。

連絡先：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA 2階 TEL:045-228-1752 FAX:045-228-1768

Email: sumai.sc@sumasen.com URL: <https://sumasen.com/>

宗教とAIDS Part16 宗教とAIDS つながる手段としての宗教

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：イグナシオ・マルチネス（カトリック教会司祭、カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク）

高村敏浩（日本福音ルーテル三鷹教会牧師）、織部佳積（プロテスタント 日本HIV情報センター）

古川潤哉（浄土真宗本願寺派浄誓寺僧侶）、岩室紳也（運営委員会）

内容：カトリック新聞記事参照（p21）

視聴者の感想：

- 織部さんの自己紹介で今のご活動に携わるきっかけを聞き、涙が出た。来年もまた出演していただきたい。（50代 東京都）
- 今年は古川さんのご出演がこの講座のみだったご縁から、高村さんや織部さん、イグナシオさんのお話を聞くことが出来ました。もっとお話を聞きたかったです。オンラインだから、開催出来たこと、オンラインを体験したから、対面のコミュニケーションの良さを再確認出来たこと…このコロナも何かのご縁なのかもしれないと考えさせられました。（30代 教育関係 神奈川県）
- それぞれの宗教の角度から、当意即妙のトークが展開されて面白いし、とても示唆に富んでいます。もちろん登壇者はその宗教を代表しての登壇ということではなく、（それぞれの宗教も教派と多様性を持つので）宗教者である一個人としての価値や世界観やリアリティを持つ発言だと思いますが、何はともあれ、これまで16回まで続いているということ自体がこのテーマの奥深さと意味だと思います。（60代 保健・医療・福祉関係 神奈川県）



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169 URL:https://abf-yokohama.org/ E-mail:abf@yokohamaymca.org

薬害エイズ裁判和解25周年

主催：薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ訴訟が1996年3月に和解するも被害者の実情は亡くなる人も多く悲惨な状況で薬害エイズを風化させないために地域で始めた活動団体。薬害エイズ被害者と共に地域で学習会を開き毎年エイズフォーラムに参加してきました。繰り返される薬害問題を取り上げながら25年活動を続けてきました。

内容：昨年に引き続きコロナ渦中でオンラインでの開催となりましたが多くの方に視聴していただきました。

今回は薬害エイズ裁判和解25周年ということで、薬害エイズ・薬害肝炎や繰り返される薬害問題や和解当時の状況などを山の手の会に関わった仲間とオンラインカフェ形式で分かち合いました。

はじめに薬害エイズ・薬害肝炎問題についてHIV弁護団の福地直樹さんからパワーポイント資料で分かりやすく説明してもらい、薬害エイズ被害者の青木信之さんから和解当時の治療からエイズ治療の変遷などを話してもらいました。和解当時積極的に薬害エイズの取材をした山科武司さんからは和解当時の若者の運動の盛り上がりについて新聞記事を紹介しながら話してもらいました。山の手の会のメンバーの小林孝子さんからは薬害被害者を中心にした活動について話してもらいました。

もう薬害エイズ裁判和解から25年、忘れ去られようとしている薬害エイズですが、その後も薬害問題は繰り返されています。これからも薬害被害者の生の声を伝えながら活動を続けていきます。ご視聴有難うございました。

連絡先：薬害エイズを考える山の手の会 〒123-0865 東京都足立区新田3-17-2-105 TEL&FAX:03-6676-2181

E-mail:egao5353@brown.plala.or.jp

女の子が安心して学校に通えるように ～インドネシアの月経衛生管理

主催：神奈川県ユニセフ協会

日本ユニセフ協会の協定地域組織として、広報、募金などのユニセフ協力活動を、地域に根ざし行っています。

内容：「女の子が安心して学校に通えるように～インドネシアの月経衛生管理」と題し、前半は女性と女の子の月経に関してグローバルに課題化されていない現状について、後半はユニセフがインドネシアで日本企業の支援により実施しているユニークな月経衛生管理のプロジェクトについて報告。

6人に1人が生理中に学校を欠席するインドネシアで、月経衛生管理を学校教育に取り入れる過程として、中学生自身が教材のストーリーブックづくりに取り組む人間中心設計アプローチの事例を動画で紹介しました。特に、生徒自身が迷信にとらわれず月経を正しく知り、リプロダクティブヘルスについて考え、男子と女子が語り、先生や大人と協力して理解を広げる過程は、大いに刺激となったという声をいただきました。またコロナ禍でもSNSやアプリで継続した月経衛生管理に対する啓発がさかんに行われていることも注目すべき点です。当日は100名超の参加があり、関心の高さが伺えました。ユニセフの具体的な支援内容や手法を、今回初めて知った方も多いと思いますが、世界を変える一歩は「正しく知って、語って、つながる」ことです。参加者の皆さんが自ら語りあうきっかけになれば幸いです。

連絡先：神奈川県ユニセフ協会

〒231-0063横浜市中区花咲町2-57ミシナビル201 TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951

E-mail: info@unicef-kanagawa.jp URL: https://www.unicef-kanagawa.jp/

HIVと妊産婦への切れ目のない支援

主催：認定特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

1993年発足 横浜市中区、様々なイベントの実施、出前講座、電話相談などを実施している。

内容：東京女子医大産婦人科准教授の水主川純先生による「HIVと妊産婦への切れ目のない支援」の講演を提供。HIV感染妊婦の出産を中心として、妊婦健診、未受診妊婦、コロナの影響など幅広い話題と、妊婦に対して必要な支援の話をしていただいた。

10～20代の学生を中心に保健、医療関係者の方の視聴が多くあり、「HIV感染が妊産婦に与える影響の大きさや、人との繋がりが減っている中で妊産婦は不安やストレスを強く感じているという現状を学びました。」「HIV感染や妊産婦への支援について学ぶことができ、多くの社会的問題があることを知り、身近な支援としてできる事はないのか、考えるきっかけとなりました。」「妊産婦が安心して出産を迎えるためには相談などを通して様々な不安を軽減する必要があり、そのためには医療従事者との信頼関係が築かれないといけないと知りました。」「産前産後ケア事業に従事しており講義の内容をリアルに感じている毎日です。ありがとうございました。」などの感想が寄せられた。

連絡先：認定特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F

横浜AIDS市民活動センター内

TEL:045-201-8808 FAX:045-201-8809

E-mail: any@netpro.ne.jp

URL: http://www.netpro.ne.jp/~any/



若者と関わる教育

保健医療関係者・保護者に知ってほしい若者の本音と関わり方のコツ

主催：精華学園高等学校町田校 校長・心理カウンセラー 椎名雄一

内容：若者とのコミュニケーションのベースになる若者(中学生～25歳)の価値観をご紹介させていただきました。近年は社会の変化が早いと、生まれ育った環境が3年くらいでもだいぶ価値観が違います。スマホ普及の前後、YouTube・Twitter・Instagram普及の前後では人の生活様式が違って来るからです。異なる価値観の人を認め、お互いを尊重することがだいぶ認められてきました。一方で現状では自分自身が置かれているマイノリティを主張するばかりでそれをまとめる人や違うマイノリティの人、数名～1名しか該当者がいないようなマイノリティにはあまり光が当たっていません。「若者の本音図鑑」というタイトルで活動していますが、それらに共通する傾向がたくさんあるわけではありません。(それでは多様性にならない)100人1000人の声を聞くうちにぼんやりと関わり方のコツがわかってきた。そんな風になるような助けになっていたら嬉しいです。

視聴者の感想：

- 性教育の講座で学校に伺うことがありますが、今の若者の考え方や価値観について知ることは土台になると思うのでとてもよい話が聞けたと思いました。(40代 保健・医療・福祉関係 静岡県)
- 若者との違いを、なんとなく感じていたことを、しっかり言語化して伝えて下さり、納得できました。(50代 保健・医療・福祉関係 東京都)



連絡先：精華学園高等学校 町田校 〒194-0013 町田市原町田4-1-10(4F) TEL:042-739-7140

URL：<http://seika-machida.jp>

多様性とはなにかを考える

登壇：かずえちゃん、ナナさん、宮崎豊久(とよさん)

内容：多様性という言葉が使われ始めたのは、おそらく2001年のユネスコ総会「文化的多様性に関する世界宣言」からではないでしょうか。その第1条にはこのようなことが書かれています。

第1条 - 文化の多様性：人類の共通遺産

文化は、時間と空間を超えて多様な形態をとります。多様性とは、人類を構成する集団や社会のアイデンティティの独自性と多元性に具現化されています。交流、革新、創造の源である文化の多様性は、自然界における生物多様性と同様に、人類にとって必要なものです。この意味で、文化的多様性は人類の共通遺産であり、現在および将来の世代の利益のために認識され、肯定されるべきものです。

多くの人々は、多様性を認めることに一定の理解を持っていると感じていますが、「そうだよ、色々な人がいて良いよね」で議論は終わってしまいます。多様性の反対は一様性(均一性)ですが、共同体においてある程度の均一性は必要です。それを何かと考えることが我々は苦手なのではないでしょうか？「色々な人がいて良い」多様性を「均一的」にどうまとめるか示さない限り、永遠にこの議論は進まないでしょう。このセッションでは、当事者である3人が自分たちのために行動を起こし、どのように社会と向き合っているかを話し合いました。

視聴者の感想：

- もやもやした気持ちのまま終わる事を肯定できるのは素晴らしいと思いました。
- 理性と感情の問題は難しいですが、考えていこうと思いました。
- 理解しましょうとか正解を求めることではないこと、発信し続けていることは、自分のためになっているのだということも頷けました。



連絡先：宮崎豊久(とよさん) E-mail:miyazaki.toyohisa@gmail.com



参考文献：United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization 2001

http://portal.unesco.org/en/ev.php-URL_ID=13179&URL_DO=DO_PRINTPAGE&URL_SECTION=201.html

なぜ、私たちはここにいるのか？

主催：ナルコティクスアノニマス (Narcotics Anonymous: NA)

ナルコティクスアノニマス(NA)は薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

内容：NA広報委員会によるメッセージミーティングにご参加ありがとうございました。今回はKOHさん(クリーン9年)のメッセージをお送りしました。私たちのメッセージが必要だと思われる機関や集まる場がありましたら、どうぞご連絡ください。私たちに回復のメッセージを運ばせてください。

視聴者の感想：

- 当事者の声が聞けて、とても貴重な時間でした。自分もなるかもしれないな、と思いました。
- NAの組織、活動などを具体的に伺えて、また当事者の生の、貴重な体験談をお聴き出来てよかったです。但し、ネット回線が不安定だったのか、お話が時折、無音になったりで、聞き取りづらかったので、残念でした。でも、お話をして下さったKOHさんの勇気とミーティングの場を設けて下さったNA南関東エリアのスタッフの方に心からお礼を申し上げます。
- 自分の内側を語ることはとてもしんどいと思いますが、貴重なお話ありがとうございました。

連絡先：NAジャパンセントラルオフィス 〒115-0045 東京都北区赤羽1-51-3-301 (献金についてはこちら)

TEL & FAX 03-3902-8869 URL: <https://najapan.org/about-na>

新型コロナウイルス感染拡大につき、当面は土曜日だけの営業となります

《営業時間》毎週火曜日 19:00～21:00 毎週土曜日 13:00～17:00 (Faxは毎日24時間受付けています)



ダルクの琉球太鼓

水谷修さんと考える、コロナ禍の依存症

～ 新型コロナウイルス対策の裏で何が・・・～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：水谷修 (水谷青少年問題研究所所長) 五十畑勇 (本牧ダルク) 田畑、石田 (千葉ダルク)

聞き手 岩室紳也 (運営委員会)

内容：琉球太鼓の演奏(ビデオ)後、千葉ダルク(薬物依存症者の回復のための民間施設)のお二人を交え、水谷修さん、五十畑勇さん、岩室紳也さんの本音トーク。



視聴者の感想：

- ビデオでしたが、琉球太鼓の迫力と皆様の息遣いが聞こえてくるようで、素晴らしかったです。ダルクの方々のリアルな感覚、水谷先生のおふれんばかりの経験談とゆるぎないポリシー、いろいろな人から学びを取り入れる事を自然体で楽しむ岩室先生と、それぞれのお立場が光る、素敵なセッションでした。(20代 学生 神奈川県)
- 「薬やりてー」「だよなー」という会話からヒントを得ました。(20代 教育関係 福島県)
- 「つながりの参加者」→ささいなことでもよいので自分にできることを考えてみたいと思った。(40代DARC 静岡県)
- 恒例の水谷修さんを交えた名物トークセッション。本牧ダルクの五十畑さんや千葉ダルクの田畑さんや石田さんを交えた、当事者の生の声を、長期化する「コロナ禍」という状況下でお話を伺うことが出来、とても有益でした。期待通りの内容でした。トークの名ファシリテーターである岩室先生にも感謝です。(50代 教育関係 神奈川県)
- 過去は変えられないから隠さない、今どのように生きているかが大切なのだとわかりました。(30代 会社員 神奈川県)

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

E-mail: abf@yokohamaymca.org

URL: <https://abf-yokohama.org/>



クロージングセッション HIV/AIDSと新型コロナウイルスの共通点

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：宮崎豊久（とよさん）（インターネットポリシースペシャリスト）

岩室紳也（オフィスいわむろ）



内容：コロナ禍になり1年以上経った社会は何を学んだのでしょうか。残念ながら、学んだのは感染症予防や対策ではなくて、人を分断させることだったのではないのでしょうか？我々はこれまでも、さまざまな感染症と向き合ってきたはずなのですが、結果として専門家は自らの研究には向き合いますが、人と向き合っていなかったのではないのでしょうか？その結果、専門家や政府の情報発信は難しい研究内容をどのようにシンプルにわかりやすくという観点からしか見ておらず、単純化された情報だけが人々の心に染み付いた形になってしまいました。結果として、ウイルスを「悪」とするわかりやすい理解に変換され、いつの間にか、報道も「辛抱」「我慢」「忍耐」そして「克服」という、感染症からかけ離れた理解になってしまいました。感染症はコロナ禍が過ぎた後も、人類のテーマとして残り続けます。私たちは、考えることを忘れてしまい、単純でわかりやすい答えばかりを望むようになってしまったことに対し、二人は鋭く突っ込みながら、答えのないことに対して、人類はどの様に考えていけば良いか語り合いました。



視聴者の感想：

- 感染症を題材に、日本の在り方を考えさせられた。メディアのフィルターを感じました。
- 自分たちのやり方にずっとモヤモヤを感じていた正体が「善意で正解を教えている押し付け」だと気が付きました。
- 答えのないことを考え続けることの大切さと、そのためには様々な立場の人との対話の場が必要なのだと実感しました。

連絡先：宮崎豊久（とよさん） E-mail: miyazaki.toyohisa@gmail.com

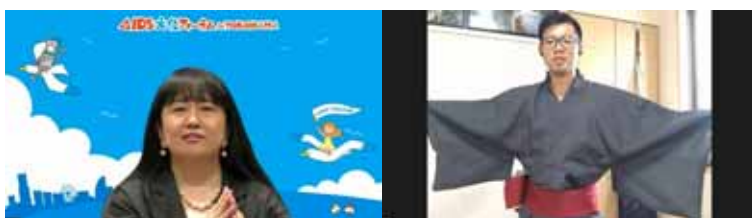
山田雅子のオンライン・ミニ講座（with星野貴泰）

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員 山田雅子

内容：会場開催時に山田が行っていたすきまミニ講座のオンライン版をやってみました。星野貴泰さんをゲストに迎え、山田は配信会場から、星野さんはなんと毎日違う場所から個性的な登場で、二人でHIV/AIDSの基礎知識、最新事情などをコロナウイルス感染と対比させたりしながら解説する時間をもちました。AIDS文化フォーラムin横浜での活動や各々の日常での活動、特に星野さんが群馬を拠点にして行っている性教育の活動について、そしてコロナ禍にいち早くオンラインでの性教育イベント開催を始め、コミュニティづくりなどをした思いや苦勞を語っていただきました。講師としては、自分の価値の押しつけにならないようにしていること、善悪のジャッジはしないことなど、参加者が自分で判断して次の行動を選びとっていけるような講演を心がけていることなどを語りました。屋外(山！)からであったり浴衣姿であったりと、オンラインだからこそできる楽しい演出で登場した星野さん。参加して下さる方に喜んでほしいという気持ちが背景のセミの声と混じって画面越しに伝わったのではないのでしょうか。

視聴者の感想：

- たっくさん頭を使う講座のまさに隙間の、オアシスのような、でもとても大事な内容であつという間に感じましたが、とても心地良い時間でした。ありがとうございました。暑い中汗を拭いながらお話されている星野さんと星野さんのダジャレを普通にスルーする山田さんの関係性がとても素敵でした。
- 性教育をする上での葛藤が伝わり親近感がわきました。
- 性感染予防とコロナ感染予防を絡めた講座で興味深く視聴できた。キーワードや絵、山からの中継など、印象に残る工夫がよかった。



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

URL: <https://abf-yokohama.org/>

星野貴泰 E-mail: tkstarys.lovelives@gmail.com

URL: <http://www.tkstarys.com>

※講演依頼があればどこへでも出かけますのでご相談ください。

オンライン活動紹介

横浜YMCA ACT

語学と国際交流に特化した、横浜駅が最寄りのYMCAです。教育機関・企業へ出向いての英語レッスンやHIV/AIDS啓発授業も行います。

内容:保健師、養護教員向け「教室で使える！HIV/AIDSを伝えるワークショップアイデア」

私たちはこれまで、年に数校から依頼を受け、中学生を対象に「HIV/AIDSや性感染症予防を伝える啓発授業」を実施し、毎年このフォーラムでは、得てして講義形式になりやすい本テーマについて、ワークショップとしての実践的な方法をお伝えしてきました。

昨年度もご依頼いただいた中学校ではCOVID-19感染対策を十分に実施し、「見るだけ、聞くだけでないワークショップ」を何とか実施してまいりました。

今後、様々な制約がある中ではありますが、動画やZOOMなどを用いた新たな発信方法を整えつつ、また本テーマに関連するメディアリテラシーや人権についても踏まえながら提供するプログラムを更新、活動を継続したいと考えています。

もし、関心のある方がいらっしゃいましたらぜひご連絡ください。



連絡先: 横浜YMCA ACT

(2021年12月まで): 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1 YS西口ビル2F

TEL:045-316-1881 FAX:045-314-6805

(2022年1月より): 横浜中央YMCA 英語学校

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 8階 TEL:045-641-5492 FAX:045-651-0223

E-mail:li_info@yokohamaymca.org URL:https://language.yokohamaymca.org/english/school/act/

カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

内容:昨年に引き続き、オンライン活動紹介で参加しました。コロナ感染予防のため、現地でのブース出展が叶わなかったのは大変残念でした。来年こそは皆様と顔を合わせ、交流できればと思います。

今年のオンライン活動紹介にはデスクの以下のメッセージ「新型コロナウイルスとHIV/エイズ」を組み込みました。『日本中、世界中が新型コロナウイルスにさいなまれている今日、分断ではなく、知恵と勇気、連帯と希望によって、この困難を乗り越えていけますように。同時に、新型コロナウイルスの陰で隠されてしまっているHIV/エイズとともに生きている人たちのことを、私たちが忘れてしまうことがありませんように』

また、Zoomで聴講したプログラムを通して「コロナ禍により、変わってしまった日常の中で、どのように人と繋がればよいのか。多くの情報が飛び交う中、何を信じ、選び取り、共有すべきか」、自分と相反する、あるいは受け入れ難い考えに出会った時、「お互いを理解できないこともある。それが現実。そして『正解』は一つではない」ということ、それでも「相手を否定しない、認め合う社会を作っていく」事を考えさせられました。



連絡先: 日本カトリックHIV/AIDSデスク

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館6階

TEL:03-5632-4414 FAX:03-5632-7920

E-mail:hiv aids@cbcj.catholic.jp URL:http://cath-aids-desk.jp/

HAATAS (HIV/AIDS Action Team At Share)

HAATASは若者に向けてHIV/AIDSの予防啓発活動を行っているボランティアチームです。

内容: オンライン開催で、これまでの対面開催時のような企画出展はできないけれど、より多くの方にHAATASのことを知っていただきたい、これまでお世話になった皆様にHAATASが元気になっている姿をご覧いただきたい、そう願って今回、活動紹介動画に参加させていただきました。動画では、HAATASの概要・理念、活動の様子について、スライドを用いてHAATASメンバーから紹介致しました。

通常はHAATASの企画にご参加下さった方のみがご覧になる活動紹介を、今回のオンライン開催により、より多くの方にご覧いただけたのではないかと思います。また、これまで活動でご一緒させていただいた皆様にも、改めてHAATASの活動の全体像をご紹介できる、良い機会になったと考えております。

新型コロナの影響により、2020年からHAATASは活動のほとんどを遠隔で行っています。ミーティングも学校等を対象にした授業も、オンラインで行うようになったことで、世界中どこからでも、HAATASに参加できるようになりました！学生の方、社会人の方、HAATASの活動にご興味のある方ならどなたでも、ぜひご参加ください。

連絡先: HAATAS

〒110 - 0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F
(特活)シェア＝国際保健協力市民の会内

E-mail: haatas.atshare@gmail.com

URL: <https://www.facebook.com/HAATASofficial/>



日本HIV情報センター (JHIC)

国籍、性別、セクシュアリティを問わず、皆が共に生きる社会を目指し、HIV/AIDSに関する情報提供、相談などを行ないます。

内容: 公式サイト紹介+動画

今年はオンライン活動紹介と、プログラム「宗教とAIDS」に参加させていただきました。私達は昨年結成されたばかりの小さな団体ですが、今年はウェブサイトを立ち上げ、月に1度Zoom相談を開始する事となりました。

オンライン活動紹介では、その紹介が出来ました。多くの方の閲覧もありました。プログラム「宗教とAIDS」では、JHICのスタッフから織部が参加しました。プロテスタントの一般信徒である織部が参加して良いものか戸惑いはあったのですが、運営委員の方からお話があり、参加させていただきました。1時間のプログラムはあっという間でしたが、コロナ禍と言う苦境の中で、それぞれの宗教者の方々がどのように対応されているのか貴重なお話が伺えて、とても良い時間でした。また織部からは、コロナ禍でのHIV検査の状況や、JHICの活動についてのお話もさせていただく事が出来ました。

AIDSフォーラム in 横浜の皆様にも、感謝、感謝の参加でした。

連絡先: 日本HIV情報センター (JHIC)

TEL: 080-4106-1311

E-mail: oribe@aqua.biglobe.ne.jp (担当: 織部佳積)

URL: <https://sites.google.com/view/jhic/>



ジェクス株式会社

コンドームだけでなく、育児用品や生と性に関わる製品の製造販売をしています。

内容:ハイブリッド予定からのオンライン対応など、実施に向けたご対応本当にお疲れ様です。当社はコンドームメーカーで、代表商品としては「グラマラスバタフライ」「ZONE」等があり、毎年参加させていただいております。性をとりまく環境とともに、参加されるお客様の変化も感じるところではありますが、オンラインで温度感や表情は見れないので、来年こそはリアルで皆様にお会いしたいですね。

数年前のリアル参加では、会場を出て一息と思った私の背中にセミがとまり、「とってくれ〜！」と叫んだら写真を撮ってくれたみんなありがとう(怒)、まさに時代の変化、考えの多様性。そして、きちんと取って逃がしてくれた通りすがりのおじさんありがとう。このイベントを通じて築いたご縁と多様な考えや情報は、日頃の活動の力となっております。今後とも性の正しく実践的な情報を分かりやすく発信したいと考えておりますので、是非お力添えください。性教育へのコンドームのサンプル協賛は、イベント実施期間だけでなく常時受け付けておりますので、ぜひご活用ください。

連絡先:ジェクス株式会社

〒540-0012 大阪市中央区谷町2-3-12

URL:<https://www.jex-sh.jp/>



迎珍の閉店

AIDS文化フォーラム in 横浜の打ち上げだけではなく、運営委員会の後は「迎珍で」というのが定番でした。しかし、今回の新型コロナウイルス禍で閉店してしまいました。新型コロナウイルスという感染症は感謝の言葉を伝えることができない別れをもたらします。2019年の報告書の写真です。

また食べたい迎珍の餃子。



広がるAIDS文化フォーラム

～陸前高田 横浜 名古屋 京都 佐賀～

内容:今回は各地のフォーラム運営委員より、今年のテーマに沿ったメッセージをいただきました。



- 佐賀 (武富) 「わかちあう、考え続ける。発信し続ける。」
- 京都 (木下) 「多様性を認めるとは？」
- 名古屋 (籠谷) 「誰もが相手をおもいやれる共生社会」
- 陸前高田 (佐々木) 「ぼくらにできること」

佐賀、名古屋、陸前高田でのフォーラムは残念ながら今年の開催は見送る決断がなされましたが、こうして互いに励ましあい、また助け合って今後の発展につながることを願ってやみません。それぞれの地からのメッセージをいただき、横浜からは「来年は会場でつながりましょう」とお伝えし、次回開催への希望を分かちあって閉会しました。

今回のフォーラムは会場とオンライン配信のハイブリッド開催を目標に進めてきましたが、COVID-19感染の拡大を受けオンラインのみの開催となりました。その中で得られた気づきを活かし、今後もAIDS文化フォーラムin横浜は発展を続けていきたいと思えます。



新聞記事

カトリック新聞 2021年8月22日

AIDS文化フォーラム「宗教とAIDS」 つながる手段としての宗教

市民の立場からエイズについて幅広い視点で考える「AIDS文化フォーラムin横浜」(同組織委員会主催、神奈川県共催)が、8月6日から8日までオ

ンラインで開催された。今年のテーマは「ともに生きる つながりの参加者になる」。22の講座・発表が準備され、エイズを切り口に、コロナ禍で社会が分断される背景も交えて、差別や偏見、多様性について学び、「ともに生きる」ためにはどうしたらよいか考える機会が提供された。その中の一つ、「宗教とAIDS」では、「つながる手段としての宗教」をテーマにトークセッションが行われた。

4人のパネリストはコロナ禍で見られる社会の分断やつながりの希薄化、宗教という立場でつながりを考える対話を進めた。進行は医師の岩室紳

也さんが務め、パネリストとして浄土真宗本願寺派僧侶の古川潤哉師、日本福音ルーテル三鷹教会(東京)の高村敏浩牧師、日本HIV情報センター(JHIV)のイグナシオ・マルテ



「宗教と AIDS」のパネリストたち。上段左から医師の岩室さん、僧侶の古川師、日本HIV情報センタースタッフでキリスト教徒の織部さん、下段左から高村牧師、イグナシオ神父

ペ宣教会)が参加した。佐賀県で僧侶を務める古川師は地域事情に言及した。感染者が少なく、コロナ禍に起因する地域社会の分断は

高村牧師は、教会での礼拝は中止されることもあるが、YouTubeやZoomを使った礼拝の配信や家庭集会が行われることもあると語った。便利な反面、テクノロジーに精通しているかどうか

始めたリレーエッセーを通して、教会内で信徒同士が深く知り合うようになったことを挙げた。

JHIVの活動を通して感じたことを問われた織部さんは、保健所がコロナ対応でHIV検査を大半が中止しており、検査を受けられない人の増加を懸念した。特に検査前後のカウンセリングが実施されないことを問題視し、そのカパーのためJHIVが9月から月に一度、Zoomで対応を始めると語った。

苦しみに共感することが必要だと強調し、コロナ禍の中では、SNS(交流サイト)やZoomなど新しいテクノロジーや出会いを、希望のメッセージを伝えるために利用することも有用なのではないかと語った。そして一つ一つの出会いを大切にすることがこの時代には特に大切だと訴えた。

古川師はこれを受けて、出会うということでは仏教では偶然の縁だが、それを意味のあるものとして受け止めていくのは人のすることであり、それを生かすことができる世の中を皆で目指すことに宗教者も関わっていきたいと語った。



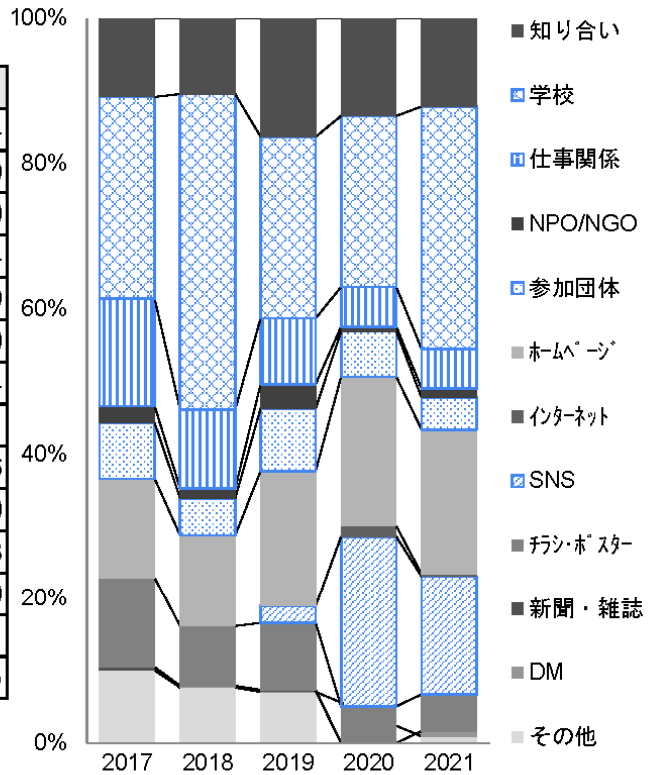
フォーラム全体集計表

全体集計推移 (2017~2021)

1. 何で知ったか

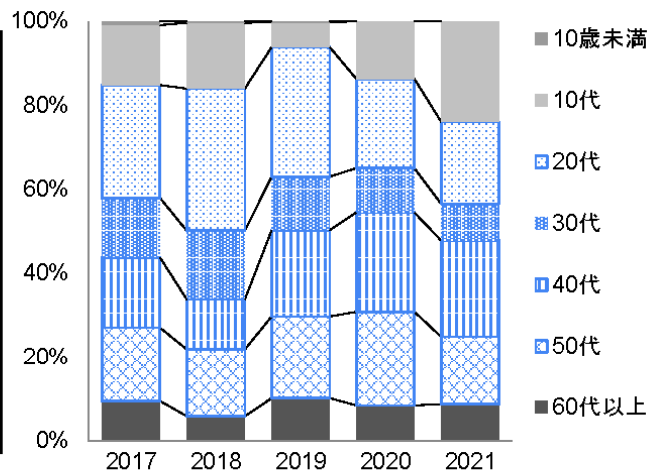
	2017	2018	2019	2020	2021
知り合い	121	169	178	125	134
学校	311	706	273	219	369
仕事関係	166	176	99	51	60
NPO/NGO	26	22	37	6	14
参加団体	86	83	94	58	49
ホームページ	153	205	204	191	220
インターネット				14	4
SNS			26	219	181
チラシ・ポスター	139	134	101	47	56
新聞・雑誌	4	0	2	0	0
DM	1	4	1	0	8
その他	112	124	77		10
無記入				12	
計	1119	1623	1092	942	1105

※SNS : Facebook 103、Twitter 116



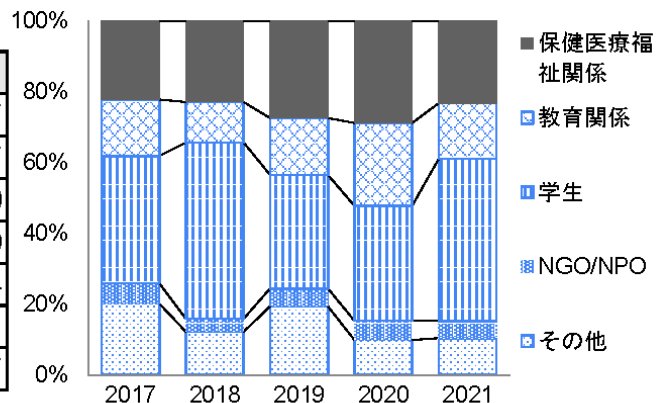
2. 年齢

	2017	2018	2019	2020	2021
10歳未満	9	5	2	0	0
10代	140	227	55	91	192
20代	264	491	286	141	157
30代	139	237	118	70	70
40代	164	173	190	157	184
50代	173	233	182	149	130
60代以上	93	85	94	56	70
無記入	17	8	12	27	4
計	999	1459	939	691	807



3. 職業等

	2017	2018	2019	2020	2021
保健医療福祉関係	215	329	249	192	187
教育関係	155	165	146	156	127
学生	349	717	292	217	370
NGO/NPO	56	53	46	36	39
その他	196	176	176	66	84
無記入	28	24	27	24	
計	999	1464	936	691	807

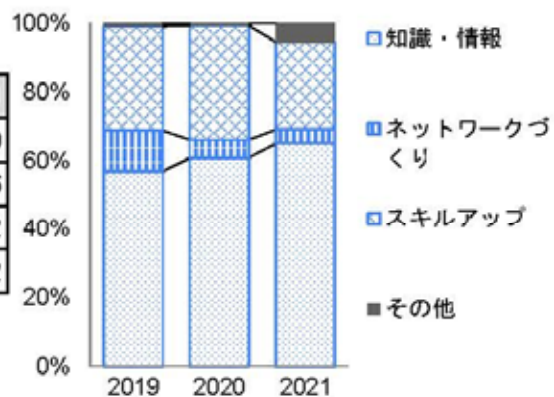


◆ 2021年参加者の居住地（都道府県別）

地域	都 道 府 県								小計
	北海道	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島		
北海道・東北	9			4	1		7		21
関東	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川		669
		2	3	8	23	131	502		
中部1	新潟	富山	石川	福井	山梨				20
		1			19				
中部2	長野	岐阜	愛知	静岡					16
		2	1	3	10				
近畿	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山		48
		4		1	26	13	4		
中国	鳥取	島根	岡山	広島	山口				1
				1					
四国	徳島	香川	愛媛	高知					10
		1		9					
九州・沖縄	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	22
		5	1			2	6	8	
合計	21	5	7	58	58	135	515	8	807

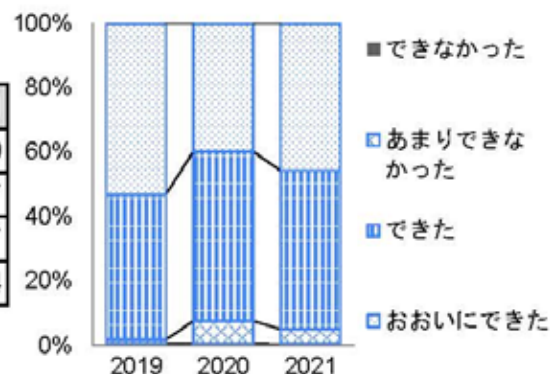
4. 来場目的

	2019	2020	2021
知識・情報	747	610	749
ネットワークづくり	157	52	46
スキルアップ	399	335	292
その他	10	5	62



5. 来場目的は達成したか

	2019	2020	2021
おおいにできた	351	274	369
できた	297	362	397
あまりできなかった	8	48	37
できなかった	4	5	4



2021年もオンライン開催となりました。発表者、参加者共にオンラインでの実施に滞りなく参加できた印象を受けました。会場での実施が実現した時にはネットワークづくりをしたいと願っています。

AIDS文化フォーラム in 横浜 28回の歩み - 開催概要と経緯 -

AIDS文化フォーラム in 横浜は、「HIVの感染経路を問わず、HIV/AIDSのみならず、社会を取り巻く状況を、多様に、文化の視点で考えていく」を特徴に28回歩み続けています。

組織委員会: HIV/AIDSに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う

運営委員会: HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画

事務局: 横浜YMCA ボランティア: 会場運営に市民ボランティアの公募—小学生から70歳代までの幅広い参加—

第1回(1994年)～第8回(2001年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催	話題/社会	来場者傾向
							日数		
1994	1	市民と海外NGOによる AIDS会議	58	40	神奈川県 国際交流協会	4,305	9日間	市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	地元市民 中心
1995	2	ともに生きる	31	26		2,200	3日間	母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加	
1996	3	ともに生きるから連帯へ	34	28		1,600		性風俗とAIDS 薬害/薬害和解	
1997	4	未来へのつどい	72	56	かながわ県民センター	4,607	3日間	映画・秋桜 カクテル療法	全国から 参加
1998	5	エンパワーメント～ 自立と協働に向けて	76	50		5,694		TV・神様もう少しだけ 障がい者認定	
1999	6	いまを生きる	70	47		3,240		複数作家の写真展 ピル解禁・感染症予防法	
2000	7	いま一人ひとりができること	64	49		3,801		女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用	
2001	8	いま一人ひとりができること	72	52		3,946		バリアについて考える ハンセン病に学ぶ	

第1回(1994年)～第8回(2001年) 主な内容

第1回～第3回

市民による市民に開かれた手弁当フォーラム!

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始めました。

AIDS文化フォーラム

日時: 1994年8月6日～14日
会場: 神奈川県国際交流協会(横浜)
横浜市中央区山下2-1-1 かながわ県民センター1階



■第1回(1994年): 社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

■第2回(1995年)～第3回(1996年): 「第1回での成果を一過性のものに終わらせること無く、継続して欲しい」というAIDSに関わるNGO等からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

第7回～第8回

専門職来場者の増加～継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

第4回～第6回

新たな工夫と挑戦へ!～量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

■第4回(1997年): 「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなるなど、HIV陽性者の方々の積極的な協力がありました。

■第5回(1998年): 治療薬が増え、HIV感染は慢性疾患になったと言われ始めました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

■第6回(1999年): 1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

■第7回(2000年): 恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。

■第8回(2001年): パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIV陽性者の桜屋伝衛門さんのトークを通して「障がい」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

第9回(2002年)～第17回(2010年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
2002	9	つながるつながる	81	56	かながわ県民センター	4808	3日間	国際NGO・国際神戸会議 SARS	国際NGO等 幅広く拡大
2003	10	AIDSこれまでの10年、 これからの10年	74	55		4624		10年の振り返り 国際エイズ会議の延期	
2004	11	いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み	83	66		6031		若者の参加 国際エイズ・バンコク会議	
2005	12	つながる空間	74	60		5509		アジア太平洋地区エイズ・ 神戸会議	
2006	13	つながる空間 ～Living Together～	72	56		3880		第20回日本エイズ学会会長 に池上千寿子さん	文化的 側面からの アプローチ 増加
2007	14	つながる	71	56		3689		かながわレインボ-センター-SHIP が横浜西口にOPEN	
2008	15	つながる ～いま、私にできること～	75	60		4170		アフリカ会議横浜で開催	
2009	16	他人ごと?!	55	54		3547		新型インフルエンザ 政権交代	
2010	17	他人ごと??	52	52		3296		猛暑 1ドル80円台	

第9回(2002年)～第17回(2010年) 主な内容

第9回～第12回



■第9回(2002年)：自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気付けられました。

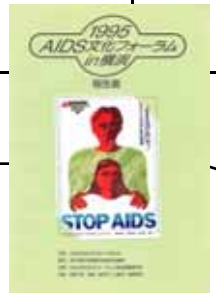
先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。

■第10回(2003年)：脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の烏丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年)：飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。



■第12回(2005年)：飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。



第13回～第17回

つながる空間、「他人ごと」から「本音の対話」へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年)：「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがピア講座を担当するなど若者の活躍がみられました。日本エイズ学会の会長に、NPOの代表の池上千寿子さんが就任した、画期的な年でした。

■第14回(2007年)：3名のHIV陽性の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

■第15回(2008年)：教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズとして紹介し、最終日に「徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か」では、本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年)：正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年)：妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんがトークセッション。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めました。

第18回(2011年)～第26回(2019年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題 / 社会	来場者傾向
2011	18	エイズの何を知っていますか？ ～変わる常識～	64	44	かながわ県民センター	3,255	3日間	東日本大震災 福島原発事故	被災地でも つながりが
2012	19	AIDS??文化?? ～仲間 新発見！～	69	53		3,184		横浜で 第26回日本エイズ学会	専門職 の増加
2013	20	これまでの20年 これからの20年	70	56		4,278		20年の積み重ねが京都、 そして陸前高田につながる	参加者増 で賑わう
2014	21	未来につなぐ新たな船出	69	56		4,165		21年目の新たな船出 佐賀に広がる	心機一転
2015	22	今こそ、ともに生きる	67	54		3,701		LGBTの権利拡大 渋谷区条例、文科省通知	交流拡大
2016	23	つながる ひろがる わかちあう	66	55		3,542		津久井やまゆり園事件 薬物への関心	10代増加
2017	24	リアルとであう	65	49		6,394		第31回日本エイズ学会(会長がNPO生島さん) AIDS文化フォーラム in 名古屋	入場者増加
2018	25	#リアルとつながる	62	47		5,355		記念切手作成 SNSでの新たな広がり	25周年
2019	26	<話す>と<リアル>に！！	58	45		4,347		Youtubeでのライブ配信 各地のフォーラムを纏てつなぐ	ネットで つながる
2020	27	リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう	24	16	オンライン	4,076	新型コロナウイルス感染拡大 オンライン開催	全都道府県 + 海外	
2021	28	ともに生きる つながりの参加者になる	24	21	オンライン	3,039	デルタ株流行 東京2020オリパラ開催	オンライン慣れ でやや減少	

第18回(2011年)～第28回(2021年) 主な内容

第18回～第21回

つながりが、絆がAIDS文化フォーラム in 横浜・京都・陸前高田・佐賀に

■第18回(2011年)：3月11日に東日本大震災があった中、オープニングでは陸前高田市の方々被災地の状況を報告。10月には「AIDS文化フォーラム in 京都」開催。これまでのフォーラムを通してできたつながりが新たな絆につながっていくことを実感したフォーラムとなりました。

■第19回(2012年)：昨年のAIDS文化フォーラム in 京都への広がり。11月に開催された日本エイズ学会(横浜)とのつながり。改めてHIV/AIDSを文化の視点で考えさせられました。

■第20回(2013年)：陸前高田でもAIDS文化フォーラムが開催されることに。一区切りを迎える一方で、新たな時代への誓いをこころに刻み、この先も続けることをみんなで確認し合いました。

■第21回(2014年)：21年目に新たな船出となったAIDS文化フォーラムが佐賀に広がることに。継続する力は多くの人や地域からのサポートがあつてこそを実感！

第22回～第23回

つながる・ひろがる・わかちあう

■第22回(2015年)：事務局が1階に移り、展示・交流スペースでの交流が活発に。予防啓発に加え、一人ひとりが生きていくために、いま、何が求められているかを、いろんな人たちと一緒に考える時代になりました。

■第23回(2016年)：熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」に学び、病気や障がいを抱えている人だけではなく、一人ひとりの生き方、支え合い方を考えるフォーラムになりました。

第27回～第28回

新型コロナウイルスの影響

■第27回(2020年)：新型コロナウイルスの感染拡大により、ZoomやYouTubeライブを用いたオンラインセミナー、動画による活動紹介等、全企画をオンライン配信で行いました。全都道府県、海外からもアクセスがあり、コロナ禍でも歩みを止めなかったことへ多くのエールをいただきました。

第24回～第26回

「リアル」がキーワード？

■第24回(2017年)：バーチャルなことが溢れる世の中になったからこそ、「リアルとであう」大切さを再確認しました。その思いが結集すべく、SNS等も積極的に取り入れた結果、入場者数が一気に増えました。プレイス東京代表の生島さんが日本エイズ学会の会長に。AIDS文化フォーラム in 名古屋初開催。

■第25回(2018年)：気が付けば25年、四半世紀。当初からHIV/AIDSをとりまく様々な文化とつながり続け、「つながりから考える薬物依存症」という書籍も誕生するなど、HIV/AIDSに学び続けている人たちが集うフォーラムの成長を実感した年でした。

■第26回(2019年)：AIDS文化フォーラム in 横浜が当初から大事にしてきた「文化」というキーワード。今年リアルにHIV感染、同性婚、薬物使用、AVについて、一人ひとりが「話す」ことでこそ理解が進むことを実感することができました。

■第28回(2021年)：ハイブリッド開催をめざして準備しましたが、デルタ株の流行により今回はオンラインでの開催に。ただ、リアル感を出すため、感染対策を万全にしつつ可能な範囲で登壇者は配信会場に。懇親会で長年お世話になってきた「迎珍」閉店の知らせに、集えないもどかしさややるせなさを感じました。

第28回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

◇公益財団法人横浜YMCA 佐竹博(組織委員長) ◇社会福祉法人横浜いのちの電話 松橋秀之
◇カトリック横浜教区 鈴木真 ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 若木一美

共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県健康医療局 医療危機対策本部室



助成金 公益財団法人エイズ予防財団

令和3年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、横浜、京都、陸前高田、佐賀、名古屋での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発に助成していただきました。

後援

◇横浜市健康福祉局 ◇川崎市 ◇相模原市 ◇横須賀市 ◇藤沢市 ◇横浜商工会議所
◇神奈川県教育委員会 ◇公益財団法人エイズ予防財団

企画運営

AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、共催の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通して活動しています。

伊東和子 岩室紳也 大江浩 糟谷潤 金井多恵 川島真理子 熊谷洸介 白井美穂 千代木ひかる 畠山雅行 前田陸生
宮崎豊久 母袋秀典 矢部尚美 山田雅子 渡辺誠二
猪谷亜子 大塚英彦 桜屋伝衛門 佐藤睦 彦根倫子
三宅晶子 吉永陽子

ボランティア

石野歩海 斉藤肇 佐藤香理 佐部秀太 船木愛梨
松村美穂

事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。27年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 高村文子 柳原絵里子



編集後記

オンライン開催になったことで、他の方々のプログラムを拝見させていただいたり、自分自身が登壇したプログラムの映像を再度見直したりする機会が増えました。その結果、フォーラムでは報告書には書ききれないほど多くの学びや気づき、さらには考える機会をいただいていたことを改めて確認させていただきました。(岩室紳也)

AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約

1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。
(以下、「組織委員会」と略す)

2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける(エンパワーメント)集いとする。

4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催(運営委員会へ委嘱)の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。

協賛・寄付 ご協力に感謝申し上げます

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 〒160-0003 東京都新宿区本塩町7 日本YMCA同盟会館 TEL : 03-5367-6652 URL : http://ys-east.jimdo.com/	ヴィーブヘルスケア株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR TEL : 03-4231-5150 FAX : 03-4231-5983 URL : http://glaxosmithkline.co.jp/viiv/index.html
ジェクス株式会社 〒540-0012大阪府大阪市中央区谷町2-3-12 マイルト谷町ビル11F TEL : 06-6942-9002 FAX : 06-6941-5234 URL : https://www.jex-sh.jp/	ヤンセンファーマ株式会社 〒101-0065東京都千代田区西神田3-5-2 URL : https://www.janssen.com/japan/

参加団体等名称・索引



名称順 有馬祐子P11 イグナシオ・マルティネスP12 五十畑勇P15 岩室紳也P6,9,10,12,15,16 かずえちゃんP14 織部佳積P12 川田龍平P6 風間暁P9 カトリック中央協議会HIV/AIDSデスクP12,P17 神奈川県ユニセフ協会P13 かんざきあやのP10 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」喜多班P8 椎名雄一P14 下村健一P6,8 ジェクス株式会社P19 高村敏浩P12 千葉ダルクP15 塚本堅一P9 特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンターP11 ナナさんP14 ナルコティクスアノニマスP15	日本HIV情報センター (JHIC)P18 認定特定非営利活動法人AIDSネットワーク横浜P13 ピースさんP9 古川潤哉P12 星野貴泰P16 松本俊彦P9 宮崎豊久(とよさん)P14,16 水谷修P15 薬害エイズを考える山の手の会P12 矢永由里子P6 山田雅子P16 横浜AIDS市民活動センターP10 横浜YMCAP9 横浜YMCA ACTP17
アルファベット団体名 AIDS文化フォーラム in 京都P20 AIDS文化フォーラム in 佐賀P20 AIDS文化フォーラム in 横浜P6,7,9,12,15,16,20 AIDS文化フォーラム in 陸前高田P20 AIDS文化フォーラム in 名古屋P20 HAATASP18	感謝 迎珍P19

2021 (第28回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日 : 2021年11月20日
 発行者 : AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
 編集 : AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
 イラスト協力 : もたいひでのり
 連絡先 : AIDS文化フォーラム in 横浜事務局
 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内
 TEL : 045-662-3721 FAX : 045-651-0169
 URL : <https://abf-yokohama.org/> Twitter →
 Facebook : <https://www.facebook.com/abfyokohama/>
 E-mail : abf@yokohamaymca.org



第29回 AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

期間 2022 8/5(金) → 7(日)

会場 かながわ県民センター (横浜駅西口 徒歩5分)

参加自由
入場無料

あなたもフォーラムに 参加しませんか!!



★ 発表・展示主催者

講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表形式は自由。例年多くの団体が、教育・若者・国際・HIVと共に生きる・医療など、多様な切り口で発表しています。詳しくはホームページをご覧ください。

(募集開始4月頃)

★ 来場者・視聴者

気になる講座を聞いたり、会場を見たり、人と出会ったり、フォーラムに来て一緒に楽しんで考えましょう！ 様々な事情で会場に来られない方もオンラインで気軽に参加できます。

★ ボランティア

小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。ボランティア活動を通じて、新しい出会いや日常に役立つ知識が得られます。

詳細はホームページをご覧ください! <https://abf-yokohama.org/>

 Facebook <https://www.facebook.com/abfyokohama/>

